

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2023年	12月	7日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	小倉	西田	宮本	本井
取材対象先	奈良市：嶋田神社の本殿				

所在地	奈良市八島町325				
所有者(取材 対応者)名	嶋田神社 (八島町自治会 ***会長 ***副会 長 ***様) ***様(個人情報守秘)			連絡先 ***	
取材申込	申込先・行政名など：八島町自治会 ***会長				
市町村 指定文化財	彫刻	軀	名称(指定年月日)		
	建造物	1棟	嶋田神社本殿 1982(昭和57)年3月1日指定		
文化財指定理由	嶋田神社本殿は、春日大社の式年造替に伴い各地に譲渡された旧本社本殿のひとつで、建立や移築の経緯が明らかな、当初形式をよく残す、貴重な建物である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	拝殿に、警報器、消火器が設置されている。有事の際はサイレンが鳴り、近くの消防署から消防車が駆けつける。また、地元の東市地区でも自警団がある。	有事の際はサイレンがなるということで、速やかな対応が可能であると思った。
獣害対策	被害の有無、対策など	記入者の感想
	獣害による被害や白蟻による被害はない。	特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	嶋田神社の維持・管理については、地元八島町(戸数50戸程度)で5戸1組が交代で当屋として嶋田神社の境内の清掃を月1回行っており、そのため境内は綺麗に保たれている。また、秋の例祭についても当屋が中心となって取り行われている。1982(昭和57)年の奈良市文化財の指定に伴い八島町の方が作られた資料(下記「資料※」を参照)によると、嶋田神社への奉仕は神八井耳命の子孫の宮本家の5軒により行われてきたが、大正時代に村民の総意により祭礼等諸行事の費用を村民で負担することとし、その際に宮本家の5軒にちなんで村民総回りの当屋制を取り入れ各々5軒1組となって奉仕することとなったことが記載されている。100年以上当屋制により地元住民の方々により守られてきたものと推察される。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

嶋田神社についての説明は、自治会からの提案で八島町公民館で行い、嶋田神社の由緒等について***さん(八島町六斎念仏鉦講)から、また祭神の崇道天皇について***さん(嶋田神社総代)から説明を伺った。さらに、***さんから、1982(昭和57)年に嶋田神社が奈良市指定文化財に指定されたことに伴い当時の宮本家の方から寄稿された資料※(A3紙で20枚に及ぶ資料)を見せていただいた。その資料には嶋田神社の歴史や地元の方々の奉仕等について記載されており、今後の嶋田神社を保存継承していく上で貴重な資料であると思った。文化財を保存継承していくためには、そのような記録をいかに伝えていくのかということも大事だと思った。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	12月	7日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	小倉	西田	宮本	本井
取材対象先	奈良市：嶋田神社の本殿				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 嶋田神社本殿

本殿 (正面写真)	本殿 (角度を変えて、写真)
	

境内からの全体写真

境内からの本殿上部及び境内社の写

			
	本殿上部	天照大神社	春日神社

文化財の由緒などを記入

嶋田神社本殿は春日大社の式年造替により近畿一帯の神社に払下げられた旧本殿の一つである。1709(宝永6)年に春日大社本社本殿第三殿として建立されたものが1727(享保12)年頃に崇道天皇社本殿として現在の崇道天皇陵のあるところに移築されたものである。1886(明治19)年に崇道天皇陵整備に伴い嶋田神社に合祀のうえ嶋田神社本殿として現在地に移築された。部材に「三之御殿」と記した墨書があり第三殿であったことが確認できる。勾欄の擬宝珠に「本年マデ二百七拾一年・・・」と刻まれており1886(明治19)年を起点として逆算すれば1615(元和元)年となり「春日移し」の最も古いものとなる。(参考：奈良市HP、奈良市史社寺編)なお、春日大社との関係では、八島町から春日若宮おん祭で奉仕する八嶋神子を出している。

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

嶋田神社は式内社で、祭神は神八井耳命(かむやいみのみこと(神武天皇の皇子)と崇道天皇(早良親王)である。1874(明治7)年の春日社の記録によると社殿は桁行69.7cm、梁行45.5cmと小さいものであり、近在の人々は江戸時代は崇道天皇御陵上に祀られていた崇道天皇社を氏神としていた。この崇道天皇社社地が御陵と改められることとなり、1886(明治19)年に御神体及び社殿等が下付され、現在のように二神を合祀することになり、その頃村民は嶋田神社の氏子となった。境内社は、天照大神社と春日神社(天児屋根命)の二社がある。現在の本殿は古式の春日造で剣巴文の金具がついていて、桁行2.53m、梁行1.92mで前方に大きい向拝(庇)がついている。(参考：奈良市史社寺編、前ページの資料※)